

「染織デザイン」 (3 単位) 学習指導略案

使用教科書： 染織デザイン (実教出版)

付属教材： 自作プリント

対象クラス： 産業デザイン科 3 年 (37 名)

単元： 第 3 章 デザインの具体化「織物組織によるパターン表現」

演習 織物の基礎組織 (手織り織機による平織り)

- 1 準備作業
 - 2 たて糸セット作業
 - 3 捨て織り作業
 - 4 平織り作業
 - 5 仕上げ作業
- } . . . 本時 (4・5 時限目)

単元の目標 織物の製作についてデザインの技法を活用し、テキスタイルによる新たな造形表現の可能性を学ぶ。

本時の目標 手織り織機の捨て織り・平織り作業を通して、織機のメカニズムを理解し、製織に必要なよこ入れ、おさ打ちなどの基本操作を身に付ける。

本時の展開例

過程	学習活動	指導上の留意点・評価
【導入 10 分】	○点検 2 (前時) の自己評価の再確認	○たて糸のセット作業がきちんとされ、ヘドルのポジション (アップ・ダウン) により、たて糸が上下に分かれるか、確認させ、上手くいかない生徒には、個別指導する。
【展開 80 分】 ○捨て織り作業 ○平織り作業	○捨て織り作業と点検 3 の評価規準の確認 ○シャトルに捨て織り用の糸を厚みが出ない程度に適量を巻く。 ○ヘドルをアップポジションへ置き、たて糸が上下に分かれできた、ひ口より捨て織り用の糸を入れる。 ○シャトルを置き、ヘドルを持って手前に引き寄せおさ打ちを行う。 ○ヘドルをダウンポジションに置き、糸道に反対側からシャトルを通す。 ○点検 3 を自己評価する。 【自己評価】 ○平織り作業と点検 4 の評価規準の確認 ○シャトルによこ糸を厚みが出ない程度に巻く。 ○よこ糸を糸端 10 cm 程残して斜めに入れて織る。よこ糸 2 段目を織る時に糸端をたて糸の端から 5 本通して上に出し、一緒に織り込む。 ○作業と点検 4 を繰り返して自己評価する。 【自己評価】	○使用する糸は、2 色のたて糸と区別できるよう、別な色を使用させる。 ○捨て織り用の糸の糸端を 10 cm 程残して、糸道に約 30 度斜めに入れるよう指示する。 ○フロントローラーと平行になるように 5 段織るように指示する。 ○ポジションを入れ替えた際に、糸の端がループしているか確認させる。 ○机間指導、生徒の作品を確認する。 【生徒の自己評価を点検】 ○糸を巻いたヘドルがひ口を通りやすいように厚みを調整させる。 ○1 色で 1 段織り終えた時と色替えをする時に繰り返し行うことに注意させる。 ○おさ打ちの強さを一定にすること、1 段できたら、一度、自己評価するよう促す。 ○机間指導し、生徒の作品を確認する。 【教員評価】
【まとめ 5 分】 ○本時のまとめ	○平織り作業と点検 4 を繰り返すことにより美しく仕上げることを確認する。	○おさ打ちの強さに合わせ、1 段当たりの糸の本数 (基本 10 本) を前後増減させ、正方形に見えるように調整するように説明する。